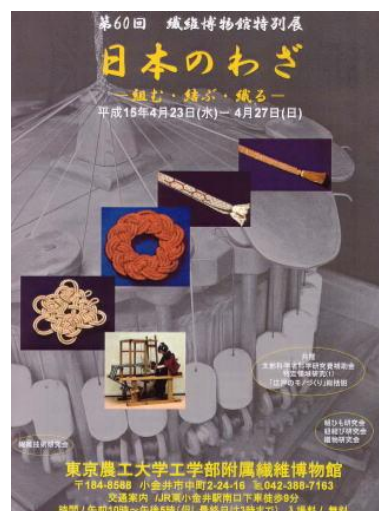


繊維博物館における「江戸のモノづくり」調査・研究

「江戸のモノづくり」とは平成13年度にスタートした科学研究費補助金（科研費）の特定領域のテーマで、「我が国の科学技術黎明期資料の体系化に関する調査・研究」が正式名称です。この研究グループの目的は江戸時代から明治初期の科学技術に関する文献資料と器物資料を調査・研究することにより現代につながる日本の科学技術の進歩を体系化することです。「江戸のモノづくり」は国立科学博物館理工学研究部を中心として総括班、6つの計画研究班とそれぞれに対する公募研究班からなりたっていて、総勢300名にも達する一大プロジェクトとなっています。研究項目は6種類あり、繊維博物館はそのうちの「器物資料の保存・修復・復元・再生研究」の研究班に平成14年度から参加しています。

繊維博物館では平成15年4月に第60回繊維博物館特別展「日本のわざー組む・結ぶ・織るー」を開催し、主に組台を中心とした調査を公開し、引き続き平成15年6～8月に国立科学博物館特別展「モノづくり日本 江戸大覧会」にも内記台を出展しました。また7月に開催された「江戸のモノづくり」第2回研究者集会においても発表しました。

平成15年11月に開催された第61回繊維博物館特別展「天然と技の出会い」においては、以前から手紡ぎの技術に関して繊維博物館と連携して研究を行っている信州大学・中澤 賢教授による研究成果も公表しました。

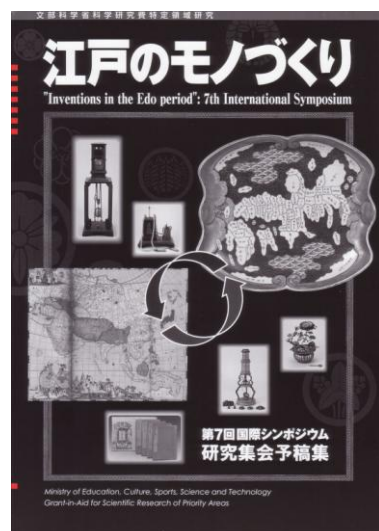


第60回特別展「日本のわざー組む・結ぶ・織るー」ポスター

信州大学
繊維学部
による
研究発表



平成16年から繊維博物館が所蔵する日本の手織機模型に基づき、日本の手織機の調査に取り組みました。その成果の一部は平成16年発行の「江戸のモノづくり」第3回研究者集会予稿にも掲載しました。また模型のモデルとなった手織機を所蔵する50ヶ所の博物館等に対して手織機の現状について調査を行い、その回答をもとに「日本の手織機便り」を発行し、配布しました。現在第6号まで発行された「日本の手織機便り」はこの目録の最後に資料として掲載しましたのでご覧下さい。



「江戸のモノづくり」
第7回研究者集会 予稿集

さらに博物館活動を通して連携を強めている小金井市教育委員会の協力で、模型にある手織機の復元に取り組みました。以上のような調査・研究について平成17年10月に長野市で開かれた「江戸のモノづくり」第7回研究者集会で発表し、今回の特別展を開催することになりました。